特42
459

通壓

東京圖書館

和書門	音楽類	函	架	號	冊
		二	四七	六	一一〇

東京帝國大學圖書之印

通感

阿波乃鳴渡より一夏を受て
僧ゐて山梅も洪浦へ孚家の一門
暴給百度の所なきを痛りく
毎度洪波過よ出て清經をよこ
なびとも出て吊ひよさやと
思ひ作 上云 儀山 ヤウ ヤ 岩根のまつ

通感

揺よりくだ衣手とハ志ら波よ揖
音計り度の浦お成と青ゆらく
出て八玄山寺乃鐘の声此頃白く
きこえ作入相こきあれいそうおく
暮かく暮る日乃ひかれ明すき
と日とくれあのまかくこそ貢
きれ浦れ花老よ頼まぬハ列れ

行未の日数也　今まて世をへるろ
海乃あまりよひまも浪小舟　何を
頼みよ老の身乃命のためよつみ
へき上ヲ月、やうさあるものかあきむく
月の出塩乃あ風小舟ちも面白き浦
乃秋の気なれ所ハ夕浪のおると乃
中よ雲つく淡路乃鳴や離きえぬ

ほうせうの聲きくごとし　晴清

月を望て清光あり　永よ

まのかりゆ夫を見て苦りく笛

あり雨の音（一八五）　角子風あり　音

いるあもあり　夢の現り　経の色

ぬれ　ようまてゆるそや　樽　ゆ

いあかりを押て　聽やきやと思ふ

半上

ゆやゆ此あり　中よ　音すゝ　滑り

完めぬ　魚の釣　毎ゆよ　ゆ　ゆ

子細ゆ此　ゆ　を　絵　ゆ

隨ひ　ゆ　二人の僧　岩

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

火の陰　俊　経　讀誦

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

通盛

しま「よき燈よ　あまとの海の
弘誓深如海暦劫ふしきのきえんよ
よりくだ五十展転の随喜功徳品
云ありがたや此経のだすけにそらさ
浦風も芦火の煙を吹立て靉
もろそて有難き龍女変成と聞時
は祖母も頼もしや祖父いふにをよ

なをひ頭月も三つの車の芦火は清く
あらひ極し形る御経好遊をせく
あら嬉しや此火の光も心あるよ
此経を読なりていざしと此浦は平
家の一門果給ひたる所あれば毎夜
此磯辺よ出て此経を読なりいざより
わきめゆ成人は此浦まで果給ては

う妻くは和語へ（シテハ）伝へうとて或へ
うたれば海をも渡らんと思て伴をも
小宰相の局うらやや諸友はれ和語へ
上
出羽よ平家の一門馬上を改め海
士の小舟よ乗うつり月よ棹さす時も
（ハヤコヲシテサレ）
あるを　家居をも勢ひ盛さいとまも
（ニスヘ）
浦ごとの敵よ打はられて安らをと惜
（ニスヘ）

し共士の打のうの鳴や淺路かいの共
（ハヒ中ニ）
あるとよ思へきうり　出羽よ小宰相
（ニスヘ）
の局乳母をちつまをつよ行とかい男へ
秋東へ人へ都よりまり頂へ感へ
討ぬ和と頼みくまりへき洪海よ
沉まをとて逆流手を取組み
うちよりとも海よ弘

ちつまりもらめ　冗談　大きなる心おや
源の義経　西をとゝも月
入り　甚だ　大方　芸の
おや　殿　おもも　芸よ　曇る　殿
乳母　なる　なる　時の　思ひ出
一人　限り　宮　ちまり　珍し　清盛
乃　独り　なる　なり　海人

なる　老人　同じ　塩の　底の　みく
つと　吸ふ　きく　洪水　独の　撰ひよ
て　一人　も　漏さ　の　方便品　後涌
もら　我　菩提　願　入る　者　己　満足
但　切　宮　皆　今　入る　仏道　通盛　変
法　経　り　ま　て　立　海　寝　世　多　孫
ば　法　や　お　寺　し　ま　や　な　も　高　め

きらぬ姿の波よりはなはだしく給ひ給ふ
ある人申てまいらせ給ふ　名計いまし
消息あり　浪人の行方知れずとよ沉果
しかの宰相の房人幾度也　是一人を
甲冑を着し兵具いとうるわしくみ給へ
ばかり成人申てまいらせ給ふ　是ハ
田乃森の合戦よりくだりて天下よ

りまた宰将殿ほまれ名誉三位
の中納言と諸人申なす島よりの頼
せうあり　抑此一谷と申ハ前ハ
海と浦とさしよせ都城ハ島あり
てハかきうつ敵もあり　とうつべき
地よりハ　いかに戦度も迯手ハ陣
を心得おきうやうくねとの一門

ばかりつかへさる通盛も具隆にたのまれ
ぬれば我陣より帰り不審相の房は
向ひ所軍明日よきにまりぬ痛
りやはれ通盛なりて洗ふらん頼
もしきにあらずばきもかもなる
ぬよりも長にあらずばなほ
命ながらぬ情なれば盃通盛酌とり

ばかりつかへさる宵月まうちなれば
もつとにたとへ唐土項羽高祖の責
をうきぬ虞氏も涙をはらはして
増るべき燈をかかげて月のそよさに
向ひ語り慰ぶ虞美人の袖登
音奇の袖登
ぬ甲冑をよろひ通盛は行
ぬ

其色の美しうしてや紙や寺わり屏
とりひろげ他人よりやや脆
たてちらすとそ仕もゆれ無一合の有
つまり屋の山ひなかうひろ
去程よ合戦をまゆりへ但馬守經
正もうや討死ぬとや拙広寺
忠度の是いうよ 密部乃六郎

忠度とゝ申て討きゝへ天晴角國
もくあるゆもくれ討死をんと待不
ぶとゝあるまきとみよりき敵よ角國往
人みくゝ水村の源五宣章り鞭とあを
てかきたゝ角國感もとゝもちて
うひめさいまりけたゝ大力あれ甲
乃まつかりちやとうかへをたち

そ[illegible]ち人去る浄[illegible]の者を
妻子[illegible]を[illegible]く[illegible]ひ
てうひ給へ　讀誦の声をも[illegible]
悲[illegible]をやつを悲歎の
姿ふかく[illegible]も家に来り[illegible]成仏
[illegible]と[illegible]そうる給き

右之本者觀世太夫織部
章句眞本令版行畢
正徳六丙申歳弥生
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町
山本長兵衛

明治十七年三月六日翻刻御届
同　年四月十二日別製本御届

翻刻人　京都府平民　寺田熊次郎
下京區第五組麩屋町
錦小路上ル梅屋町十三番戸

定價四錢